

## 2420 | 陶磁基礎実習 II

2 単位（面接授業 2 単位）

西川聡教授

## 授業の概要と目標

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、基本的には自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらには今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、陶磁器制作における最も基本的な要件である素材の特性を知るために、各自が粘土を調整し、制作に必要な均質性、柔らかさを出すための練りかたを実習する。ここでは、造形表現の面白い可能性を持っているさまざまな土の板の作り方を実習。粘土板（たたら）による成型法と造形表現を学ぶ。

なお、この科目は 2013 年度まで開設された「工芸Ⅳ」の素材別陶磁クラスと同一の内容である。

## 課題の概要

## ○面接授業課題

粘土板（たたら）成形法による花器のデザインと制作

## 授業計画

## [面接授業]

- ・作品形状、製作技法に適した粘土調整をおこなう
- ・制作に必要な均質性と柔らかさを出すための練りの実習
- ・花器のデザインと制作

## 成績評価の方法

面接授業の最終日に提出された作品で評価し、授業態度等を加味する。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わない。

- ・2013 年度まで開設の「工芸Ⅳ」陶磁クラスの受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。
- ・受講人数を制限する場合がある。
- ・工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース進学希望者で、クラフトデザイン系陶磁クラスを選択する場合は、1・2 年次において「陶磁基礎実習Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい。
- ・工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、素材別基礎実習Ⅰ・Ⅱの科目の他、「工芸Ⅰ・Ⅱ」の履修を勧める。

## 教材等

参考資料：横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

小松誠 監修『陶磁 発想と手法』（武蔵野美術大学出版局 2009 年）